



自転車って
「いいね！」

列車内の自転車の持ち込みが

“普通の景色” になることを目指して

サイクルトレインを広げていこう

2024年6月20日 全国サイクルトレイン情報交換会
鉄道局 チャリトレ推進チーム

5月は自転車月間

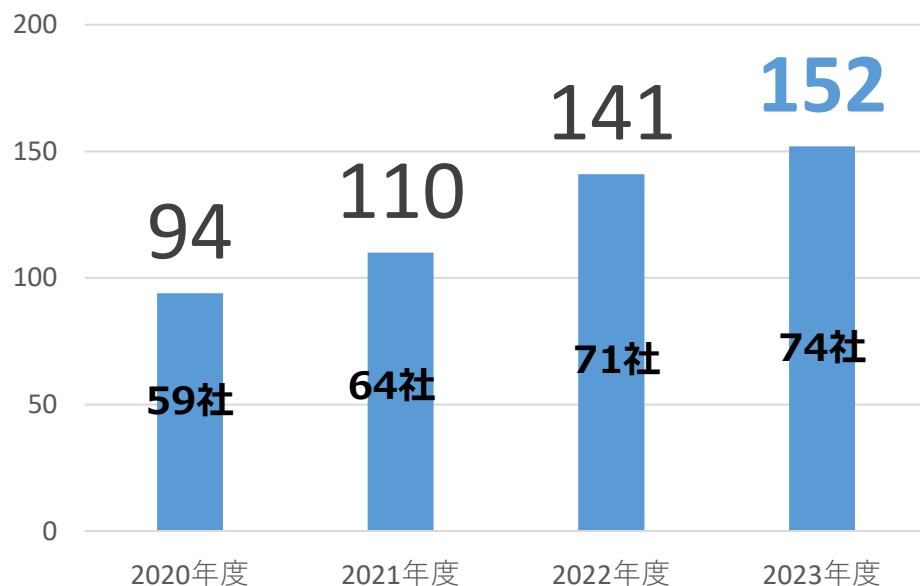


GOOD CYCLE JAPAN

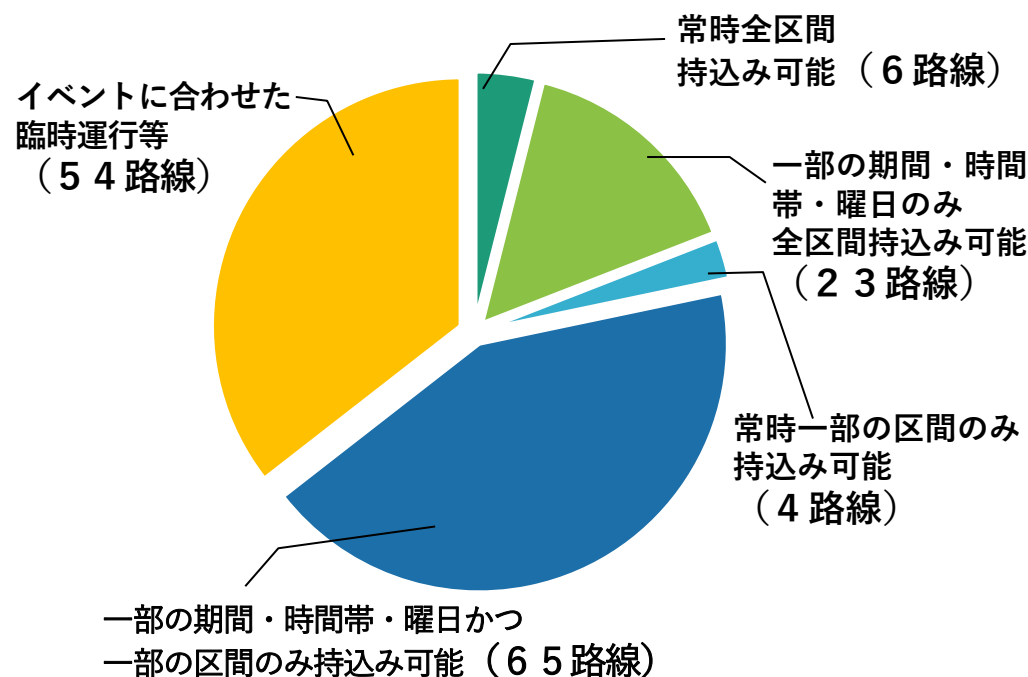
サイクルトレイン(チャリトレ)の現状

- 実施路線数はコロナ禍を経て増加傾向（2023年度 **74社152路線**）
- 常時実施は**約1割弱**、特定の区間/時間帯が**約6割**、その他イベントに合わせた実施
- 線区の**輸送状況を踏まえて柔軟に区間/時間帯等を設定**し、着実に**実施路線数が増加**
- 「**サイクルトレイン・サイクルバス導入の手引き**」が策定（R5.5**自転車活用推進本部**）

サイクルトレイン実施路線数



＜路線別の実施状況内訳＞



サイクルトレイン(チャリトレ)の浸透・拡大による期待

- チャリトレの浸透・拡大は、**鉄道の利活用促進、地域の観光活性化、鉄道駅からの二次交通確保**などの効果や意義が期待される



① 利活用促進

地方鉄道の利活用促進

② 観光連携

サイクルツーリズムなど
地域観光の活性化

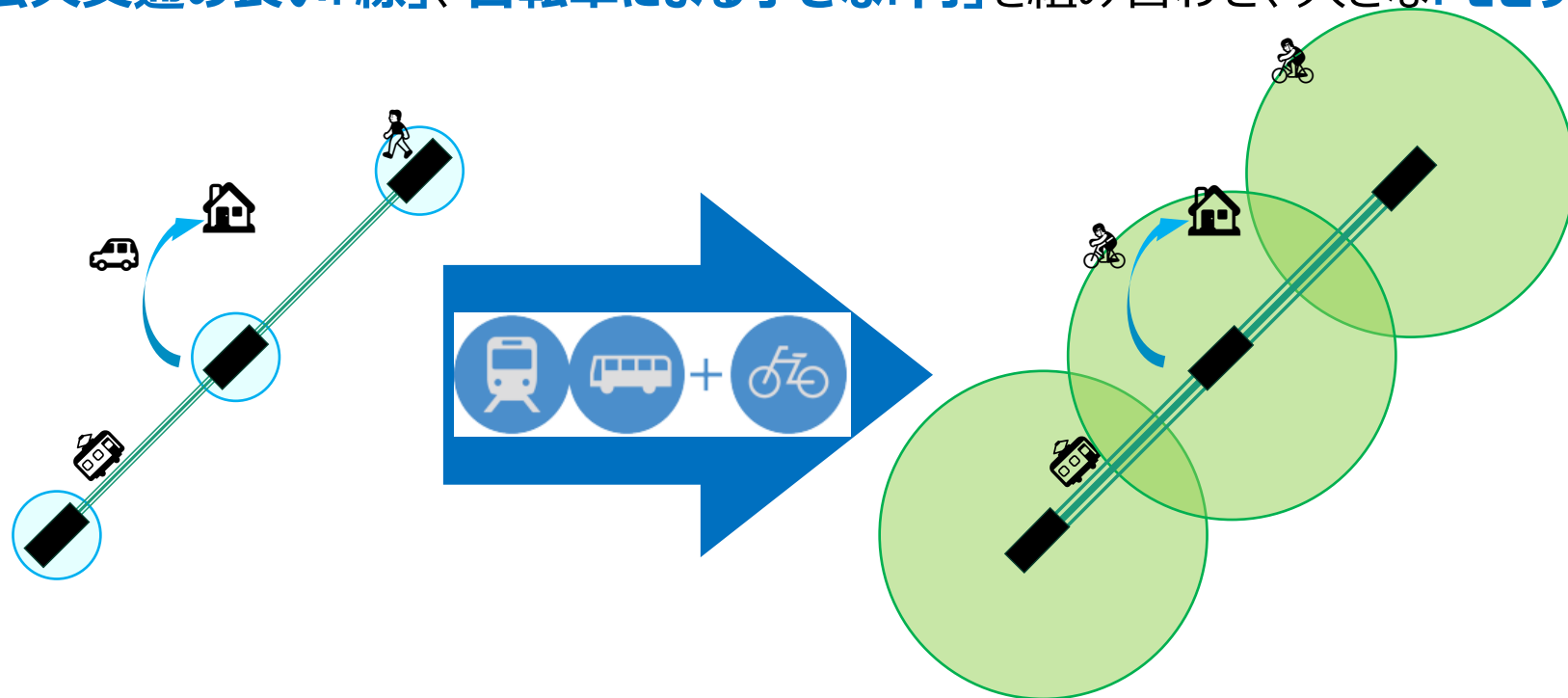
③ 二次交通確保

中高生等の通学手段や
運転免許返納後の
自立的移動手段の確保

なぜいま、「自転車×公共交通」なのか 1/2

- 自転車は、**環境、健康、渋滞緩和、地域活性化**等に資する**持続可能な移動手段**として、**日常・非日常両面からの活用/推進が注目**

(1) **公共交通の長い「線」、自転車による小さな「円」**を組み合わせ、大きな**「モビリティの面」**



(2) サイクルトレインにより、**大きな追加投資を必要とせずに、観光・日常利用の両面で移動利便性が向上**、持続的な公共交通の利用促進にも寄与。

なぜいま、「自転車×公共交通」なのか 2/2

(3) 自転車と公共交通のベストミックスを実現し、**自転車利用者、交通事業者及び地域全体にとって「三方良し」**になることで、持続可能なモビリティ社会への好循環！

1) 自転車利用者にとって

- ✓ **輪行の手間と負担が軽減**。特に、E-bike、ママチャリ、キッズバイクなどで効果大
- ✓ 片道サイクリングやワープにより、**サイクリングの範囲&機会&裾野が拡大**
- ✓ From/To駅の二次交通手段として自転車を活用することで**アクセス範囲拡大**
- ✓ 天候不順やトラブル時等に公共交通を活用でき、柔軟な行程が可能

2) 交通事業者にとって

- ✓ 自転車との連携により、**観光/日常両面で利用客数が増加し、利用圏域が拡大**
- ✓ **既存の設備・施設を有効活用**できるので、**大規模な追加投資が不要**

3) 沿線地域にとって

- ✓ **観光/日常両面で二次交通問題が改善**し、持続可能なモビリティ環境が実現
- ✓ クルマへの過度な依存が緩和され、**自転車の利用機会**が増加
- ✓ サイクリストの滞在時間や訪問範囲が拡大し、**観光振興に寄与**

活用状況① 上毛電鉄サイクルトレイン

上毛電鉄（中央前橋～西桐生）：H15開始

現在年間約4万人が利用

→通勤・買い物や、通学の高校生などの日常利用として定着



駅待合室で、自転車と共に待つ景色が普通に



全ての駅でスロープなどで段差解消

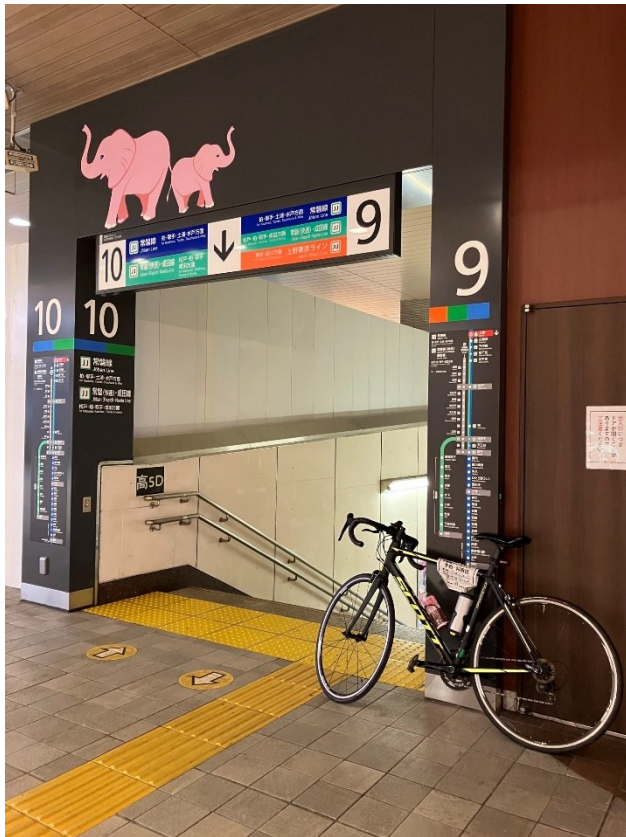


車内では自ら保持して固定

活用状況② JR東日本（常磐線サイクルトレイン）

JR東日本(上野～土浦)：R5.10-12月の土日の一般車両に混乗の実証実験

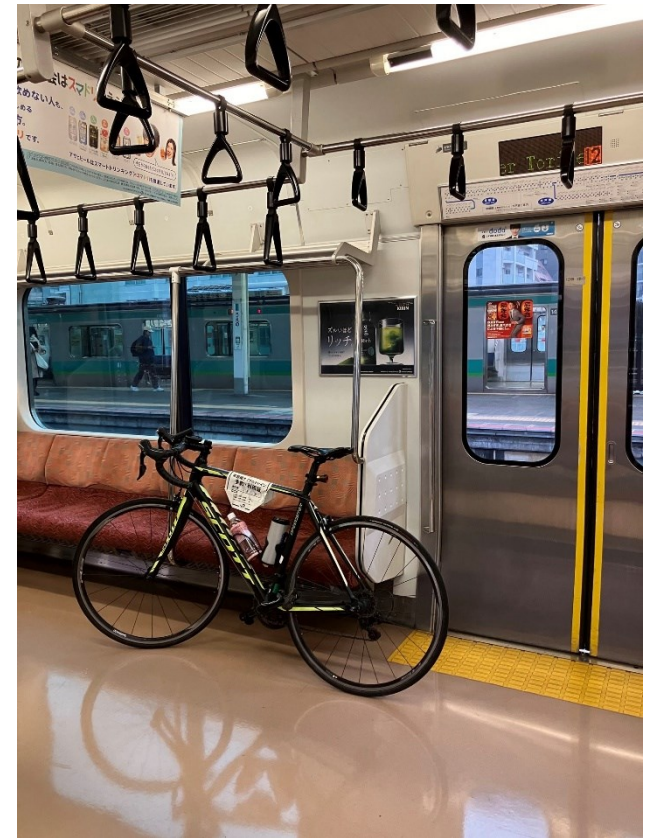
→R6.6月～ 通年実施！



階段を自ら運搬



利用者とわかるように
利用票を掲示



14/15号車に5台ずつ
乗車可能

活用状況③ 近鉄（通学サイクルトレイン）

通学用サイクルトレインの実証実験（R5.12～ 近鉄・志摩線）

→R6.4～ 本格実施！



推進に向けてHP開設

■ 鉄道局HPに、サイクルトレインのページを開設（2023.12）

→「サイクルトレインを始めませんか」として広く周知（月間 1,000ビュー）

ホーム > 政策・仕事 > 鉄道 > サイクルトレインを始めませんか

主な施策

- [鉄道の安全対策](#)
- [J R北海道の安全対策](#)
- [鉄道のテロ対策](#)
- [リニア中央新幹線の整備](#)
- [新幹線鉄道の整備](#)
- [都市鉄道の整備](#)
- [地域鉄道対策](#)
- [我が国の貨物鉄道輸送](#)
- [鉄道の技術開発](#)
- [鉄道分野における地球温暖化対策](#)
- [鉄道の運賃・料金](#)
- [バリアフリー関連事業](#)
- [我が国鉄道の海外展開](#)
- [国鉄改革について](#)
- [その他関連事項](#)

サイクルトレインを始めませんか

サイクルトレインとは、自転車を解体したりすることなく、鉄道の車内にそのまま持ち込むことができるサービスです。公共交通と自転車を組み合わせることにより、行動範囲をより拡大、あるいは公共交通の利用の促進につながることが期待されます。昨今では、観光路線やローカル線活性化の一環としても、サイクルトレインの実施事例が増えてきており、また通学目的利用にサイクルトレインを活用する実証実験も始まっています。しかし、全国的にはまだまだ導入や拡大の余地があり、今後の普及が期待されます。全国に広がるサイクルトレインの取り組み事例や、課題と対応、支援などについて紹介します。



全国に組み込みが広がっています

2022年度には、71社141路線で実施されています。常に全区間で利用可能なのは7路線あり、区間や期間・時間帯・曜日を限定したものが82路線、イベントに合わせた臨時運行等が52路線となっています。

- [サイクルトレインの実施状況（2022年度）\(PDF形式:333KB\)](#)
- [サイクルトレインの導入一覧※臨時運行等除く（2023年3月31日時点）\(PDF形式:1.1MB\)](#)

工夫して取り組んでいます

サイクルトレインの実施にあたって、さまざまな工夫をしながら取り組まれている先行事例が多数ありますので、よくある質問について、質問回答形式でご紹介します。

- [よくある質問と答え\(PDF形式:135KB\)](#)

導入を支援します

導入にあたって社会実験にて、地域の関係者とともに試行してもらうことが第一歩となります。各種補助金を活用していただくことも可能ですので、詳細は、各運輸局等にご相談ください。

- [ポストコロナを見据えた受入環境整備促進事業\(PDF形式:814KB\)](#)
- [地域公共交通再構築調査事業\(PDF形式:205KB\)](#)

関連リンク

- [サイクルトレイン・サイクルバスの導入の手引き](#)
- [自転車活用推進本部事務局](#)
- [サイクルトレイン全国MAP \(Bicycle Club\)](#)

基本情報

- [鉄道局組織図](#)
- [鉄道局関係予算](#)
- [鉄道局関係税制](#)
- [法令等](#)
- [審議会・委員会等](#)
- [公共事業の評価](#)

エコレールマーク

鉄道でエコキャンペーン

[鉄道の歴史](#) [Q&A](#)
[データ集](#) [フォトギャラリー](#)

サイクルトレインの好事例のポイント

実施状況調査やヒアリング等を通じて、チャリトレの推進・展開に向けて状況お伺い

<好事例に見られるポイント>

○**予約なし、追加料金なし**で、利用者利便性の向上

○**沿線自治体の協力・連携**

→広報、到着先のサイクリングコース整備やツアー・もてなし、運営補助等

○高校生の**通学**や免許のない高齢者等の**移動手段として活用**

○**簡易な車両改良**で、サイクルトレイン用車両を準備

○輪行が困難な**小学生なども自力で持ち込める**。家族でのお出かけを後押し

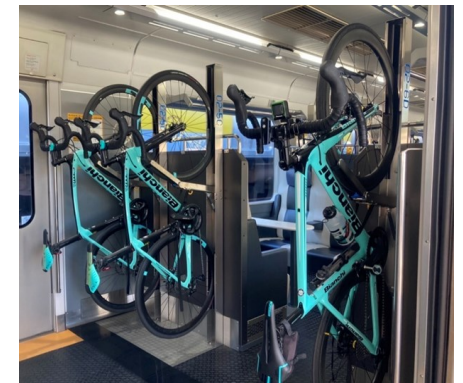


サイクルトレインの心配ごと

実施状況調査やヒアリング等を通じて、チャリトレの推進・展開に向けて課題をお伺い

<課題・懸念>

- 専用列車**では、需要が少なく**採算ベースでは困難**
→安全確保・補助スタッフのための人件費等の追加コスト、一般乗客を車内空間から排除することの逸失利益、天候悪化によるノーショー・キャンセルリスク等
- 利用に当たっての手続きが煩雑 →**予約や決済、求められる安全確保等**
- 安全確保** →自己責任の理解、**駅や車内での接触**、マナー、**車内固定・保持等**
- 施設の対応が不十分** →駅構内の階段や段差未解消、**狭い車内、ワンマン対応等**
- <その他>
- 他事例や補助制度**を知りたい
- サイクリスト需要の創出や一般乗客の理解促進など
全国的な機運醸成の期待



サイクルトレイン(チャリトレ)推進の方向性(案)

列車内の自転車の持ち込みが“普通の景色”になる！ ことを目指して、
生活/観光利用のための“チャリトレ”の普及・促進を図る

(1) 政府施策として広く位置づけ

→公共交通リ・デザイン（地域公共交通と自転車の有機的連携）

(2) チャリトレの導入効果の見える化

→定量的/定性的な効果を収集・分析。好事例の公表・発信

(3) 最低限のハード整備支援

→①現行の施設/車両で実施できるサービスの検討（利用者や現場が慣れる時間の確保）

②現場の意見を踏まえ、駅施設や車両設備の改修、決済システム導入等の支援

(4) 全国的な機運の醸成・試行機会の増加・ルールやマナーの浸透

→事業者の横の繋がり意見交換、自治体連携、メディア発信など

(5) 駅の拠点機能の強化と連動

→地方部の駅のサイクルポート等と連動し、チャリトレが移動式サイクリング拠点に



列車内の自転車の持ち込みが
“普通の景色” になることを目指して
サイクルトレインを広げていこう

